群馬の「Social House」

障害者働く植物工場 拡大

3月に2棟目 レタスなど増産

植物工場で障害者の働く場所を通年提供する（20年12月、群馬県高崎市）

群馬県高崎市のＮＰＯ法人、Ｓｏｃｉａｌ Ｈｏｕｓｅ（ソーシャルハウス）は植物工場で作るレタスなどの野菜を増産する。半導体加工などを手掛ける成電工業（高崎市）のグループ団体で、２０２１年3月に県内で2棟目となる植物工場を稼働させる。植物工場は赤字の事業者も多いなか、「農福連携」で事業拡大を図る考えだ。

ソーシャルハウスは、一般就労が難しい障害者が働く「就労継続支援Ｂ型」の福祉事業所だ。知的障害者を中心として受け入れており、13年の設立以来、植物工場でレタスやベビーリーフを生産している。障害者が生産に携わった野菜の販売収入に加え、国から障害者の就労支援サービスに対する報酬を得ている。

JGAP
Social House
リボンレタス

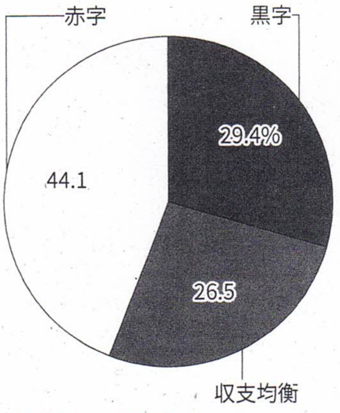
県内スーパーには「Ｓｏｃｉａｌ Ｈｏｕｓｅ」のブランド名で販売している

今回、新たに作った施設は県南部の藤岡市にある。利用する障害者の定員は20人から順次、増やしていく。すでに建物は完成しており、21年3月から障害者の受け入れと野菜生産を始める。

高崎市にある1棟目と同様、完全人工光型の植物工場と障害者の作業所を併設する。新施設の生産量は月間２４００～９０００株になる計画を立てており、1棟目と合わせた全体の生産量は最大8割増える見通しだ。

「Ｓｏｃｉａｌ Ｈｏｕｓｅ」というブランド名で、県内の大手スーパーや飲食店などに販売している。増産体制を整えることで、野菜を出荷する店舗数を拡大させる。露地野菜と違って天候に左右されず、安定価格で販売できることなどが好評だという。

植物工場の赤字は4～5割



（出所）日本施設園芸協会の資料

成電工業は約10年前に植物工場の機械を販売する新規事業を立ち上げた。福祉事業所からの注文が多かったことが、自社でもＮＰＯ法人を立ち上げて事業参入するきっかけになったという。福祉事業所にとっては、植物工場は季節を問わず安定した仕事が見込めたり、作業をマニュアル化しやすかったりする利点があるようだ。

成電工業社長とソーシャルハウス代表を兼務する滝沢啓氏は「（商圏人口の少ない）地方で植物工場を運営するモデルケースの一つが農福連携だ」と指摘する。障害者就労支援の報酬を得られるため、少ない生産量でも事業を継続させやすいためだ。

業界団体の日本施設園芸協会（東京・中央）が19年度に全国で実施した調査では、植物工場を運営する4～5割の事業者が赤字だった。福祉事業所の生産シェアはまだ僅かとみられるが、今後も参入が進めば業界に一石を投じる可能性もある。

（前橋支局 高野馨太）

メルカリ会長

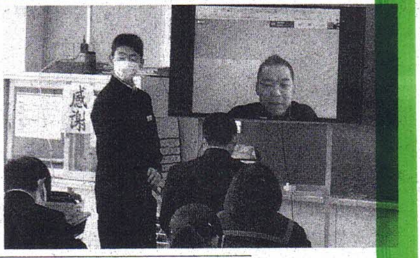
茨城の中学生向け授業

オンラインで仕事観

茨城県の鹿嶋市立大野中学校でフリーマーケットアプリ最大手、メルカリの小泉文明会長を講師とするオンライン授業が開かれた。同市は小泉氏が社長を務めるサッカーＪ１鹿島アントラーズ、その筆頭株主のメルカリと地方創生で連携協定を結んでいる。キャリア教育のコーチとしてベンチャー経営で実績のある小泉会長を招いた。

「アントラーズキャリアデザイン教室」は22日、同校2学年4学級の計約１２０人が各教室とパソコン室で受講した。小泉氏が中学時代に勉強で挫折を味わってファッションに熱中した経験、父親が同県行方市出身であることなどが縁となってアントラーズファンになった経緯などを説明。投資銀行に就職後、ミクシィ経営陣に加わり、さらにメルカリの社長や会長を務めた経験を語った。

メルカリとアントラーズの仕事内容や将来の仕事観にも触れて「何歳でもどんな立場でもチャレンジが重要」などと述べた。



小泉会長がオンラインで質問に回答した（22日、鹿嶋市）

栃木県が林業研修施設

24年開設 新規就労者定着へ

栃木県は２０２４年4月、林業人材の育成拠点となる栃木県林業大学校を開設する。これまで実施していた就業者向けの

短期研修に加え、林業に関心のある高校の卒業者や転職希望者ら向けの長期研修も手がける。基礎的な知識や技術を手厚く指導することで、新規就

内の林業センターの敷地内に新設する。木造2階建ての研修・研究棟と同1階建ての屋内実習棟からなる。21年度中にカリキュラムや建物の設計を

15～20人程度に抑え、1年かけて林業の知識や技術を学び必要な資格も取得してもらう。社会人マナーも指導する。

栃木では毎年40人前後が新たに林業に就業するが、離職率が高いため、林業従事者数はここ数年６６０人前後で推移している。他産業に比べて低